

展覧会への いざなひ

無料
公演

市民響 × 大井剛史

府中市民交響楽団

Takeshi Ooi · 指揮

リスト ハンガリー狂詩曲 第2番

F. Liszt : Hungarian Rhapsody No.2

ラヴェル 組曲「マ・メール・ロワ」

M. Ravel : Ma Mère l'Oye

ムソルグスキー 〈ラヴェル編曲〉

組曲「展覧会の絵」

M. P. Mussorgsky : Tableaux d'une Exposition

2017年

9月24日 日

13:30 開場 / 14:00 開演

14:00 start, Sunday, September 24th, 2017 at Fuchu-no-Mori Theater "Dream Hall"

府中の森芸術劇場 どりーむホール

全席自由 入場無料

*小学校入学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。

*当団では点字チラシとプログラムをご用意しております。詳細はホームページをご覧ください。

お問い合わせ：ハーモニージャパン 03-3409-3345 / 大橋康廣 042-368-6180 / info@fuchu-cso.org

主催：府中市・府中市芸術文化協会 主管：府中市民交響楽団 <http://www.fuchu-cso.org/>

協力：点訳ボランティアてまり



5月の春の演奏会では、タイトルから情景を思い浮かべられる曲をお聴きいただきました。そして秋の演奏会もまた、タイトルがついた曲をお届けするのですが、今回はまた少しちがった趣向です。

メイン曲の『**展覧会の絵**』はご存知の方も多いことでしょう。冒頭のトランペットのメロディ（『**プロムナード**』＝フランス語で散歩・散歩道の意味）から始まり、音楽は展覧会の中をゆっくり進んでいきます。実際にムソルグスキーは友人の個展を歩き、そこで観た10枚の絵からインスピレーションを得たとのこと。『**プロムナード**』はこの後も絵と絵（曲と曲）の間に時折演奏され、作曲者が歩く姿を表しています。

絵のタイトルがなかなかユニーク。『**小人**』…というにはなかなか奇妙でグロテスクな様子、『**古城**』『**テュイルリーの庭**（パリ中心のテュイルリー公園）』はまあ想像できるとしまして、『**ビドロ（牛車）**』…なんと重苦しそう、『**卵の殻をつけた雛の踊り**』…果たして可愛いのかシュールなのか。『**サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ**』…サムエルさんは大金持ちで傲慢、シュムイレさんは貧乏で卑屈、というどこかにいそうな二人の会話、短い曲ですがトランペットは難所だそうです。『**リモージュの市場**』…フランス中部の町の市場にて、おしゃべり主婦は全世界共通、『**カタコンベ＝ローマ時代の墓**』…“ローマの松（春の演奏会にて演奏）”にも同じタイトルの曲がありましたがやはり不気味、『**死せる言葉による死者への呼びかけ**』というさらに不気味な部分が続きます。『**鵜の足の上に建つ小屋**』…小屋にはなぜかメンドリの足がついていて、そこにバーバ・ヤーガという魔女が住んでいるようですが、この魔女が相当恐ろしいことは曲からわかります。『**キエフの大門**』…ウクライナの首都に造られる凱旋門、壮大なクライマックスを迎えますが、某テレビ番組の挿入曲であまりに有名になってしまったので、弾いていてもちょっとクスツと笑えます。

曲のモチーフになったとされる絵はインターネット上でも見られますので、お時間がありましたら検索を。曲のイメージとはちょっと違う？と思うものもありましたが…。

その他の曲も少しご紹介しましょう。

最初に演奏する『**ハンガリー狂詩曲 第2番**』はお聴きになれば冒頭から、ああこれ！とわかる曲。トムとジェリーが大騒ぎする演奏会シーンでも有名です。

『**マ・メール・ロワ**』の英語名は「マザー・グース」、モーリス・ラヴェルが童話を題材に作曲しました。これもまた各曲のタイトルが親しみやすいものです。第1曲『**眠れる森の美女のパヴァーヌ**』と第5曲『**妖精の園**』は「眠れる森の美女」から。第2曲『**親指小僧**』は「一寸法師」と訳されるとさらに親近感がわきます。第3曲『**パゴダの女王レドロネット**』パゴダは中国製の首振り人形だそうです。第4曲『**美女と野獣の対話**』今話題のあの映画のストーリーからですね。フランス音楽特有の不思議なハーモニーは、お話の世界そのものです。

今回のプログラム3曲は、元々**ピアノ曲**であったという共通点もあります。1人もしくは2人の連弾で弾かれていた楽譜が、オーケストラ用に編曲されているのです。みんなで演奏すれば音符も分担して、それはそれは容易で楽々と……というわけには残念ながらいきません。**ポロポロン**とピアノではきつと軽々と弾けるであろう楽譜も、なにやらややこしく指がこんがらがりそう～!\$&#!?*%という所がいくつもあります。

府中の森にて秋の展覧会、是非ご来場ください！



©K.Miura

指揮

Takeshi Ooi

大井剛史

1974年生まれ。

17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。

東京芸術大学指揮科を卒業後、99年同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。96年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。

2000年～2001年、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者。2007年～2009年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。

2008年アントニオ・ペドロツィ国際指揮者コンクールで第2位入賞。

2009～16年3月ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉（現・千葉交響楽団）常任指揮者、2009～12年度山形交響楽団指揮者、2013～17年3月同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。

このほかほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーとその誠実な指揮でいづれも高い評価を得ている。

オペラの分野では、在学中より新国立劇場、東京二期会などのオペラ公演で副指揮者を務め、2002年「ペレアスとメリザンド」（ドビュッシー）を指揮しデビュー、以降多くのオペラ作品を指揮するほか、ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」（バーンスタイン）も指揮。バレエの分野では「ロメオとジュリエット」（プロコフィエフ）などで新国立劇場バレエ団の公演を度々指揮、国内を代表するバレエ団やダンサーが一堂に会した「NHKバレエの饗宴」でも指揮を務めた。さらに、小松原庸子スペイン舞踊団や、野村萬斎、花柳壽輔、井上八千代といった日本舞踊界の名手たちと共演するなど、幅広い舞台芸術分野で活躍している。

尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。